



開館15周年記念特別展

藤島武二と小磯良平展

—洋画アカデミズムを担った師弟—

藤島武二「宮女と宝船」1929年頃 油彩

2007年9月15日

11月18日

(前期展示：9/15～10/14 後期展示：10/16～11/18)

■休館日/毎週月曜日(ただし9/17、9/24、10/1、10/8は開館)、9/18、9/25、10/9

■開館時間/午前10時～午後5時まで(金曜日は午後6時まで)、入館は開館の30分前まで

■入館料/一般 800(600)円、高大生 600(400)円、小中生 400(200)円

※1日1回入館料以上の団体：中学生以上観覧料半額(小学生以下観覧料0円) ※2007年10月1日より観覧料の増徴あり

■10/3(水)はKOBE観光の日で入館無料

■主催/神戸市立小磯記念美術館、読売新聞大阪本社

■後援/NHK神戸放送局

神戸市立小磯記念美術館

〒650-0032 神戸市東灘区西洋町中5-7

TEL.078-857-5880

http://www.city.kobe.jp/cityoffice/37/koiso_museum/



開館15周年記念特別展

藤島武二と小磯良平展

—洋画アカデミズムを担った師弟—

藤島武二(1867~1943)は、日本の近代を代表する洋画家であり、常に画壇の中心的存在として洋画界をリードする一方、東京美術学校(現東京藝術大学)で後進たちの指導にも努めました。そして自由な気風を特長とした藤島教室からは、次代を担う画家たちが多数輩立っていました。

その中一人である小磯良平(1903~88)は、昭和を代表する洋画家として活躍するかわり、戦後は、梅原龍三郎・安井曾太郎の後を受ける形で、東京藝大の教授として小磯教室を率い、師の藤島と同様に後進たちの育成に尽力しました。

神戸市立小磯記念美術館の開館15周年を機にとりあげる藤島・小磯の二人は、師弟いずれもが画壇を代表する洋画家として活躍し、ともに母校・藝大で後進の指導にも尽くしたという、他例の少ない共通点を持っています。本展ではこの二人の画家の作品計約130点を集め、それぞれの画業と日本の近代洋画に果たした役割をたどります。

藤島武二「半ある朝」1908年 油彩
京屋神古館分館藤島武二「日の出」1931年頃 油彩
ひろしま美術館藤島武二「探野(習作)」
1893年頃 鹿児島市立美術館藤島武二「自画像」1905年頃 油彩
石川県財団法人石川県美術館

藤島武二「婦人と薔薇」1904年 油彩

小磯良平「T嬢の像」1926年 油彩
兵庫県立美術館(前期展示のみ)小磯良平「教の休息」1927年 油彩
東京藝術大学小磯良平「合唱」1941年 油彩
兵庫県立美術館(後期展示のみ)

小磯良平「リットを持つ婦人」1960年 油彩

会期中のイベント

- 講演会/「藤島武二と小磯良平」講師 栗田生馬(当館学芸員)
10月14日(日)午後2時~3時頃 当館2F絵画学教室にて(定員80名)
- 特別展解説会/毎週日曜日(10~14時) 午後2時~(約20分)当館2F絵画学教室
- RICアートカプセル2007(美術館周辺で開催)10月20日(土)11時~17時、
21日(日)11時~16時、館内で朝し・美意識プログラム、美術館大作展4スペシャル
「緑のシャボン玉はアーに変わる」を実施します。
- 美術館大作展3「藤島さんと小磯さんくらべてさぐる二人のひみつ」
9月20日(土)、20日(日)、10月18日(土)10時~19時(10時~)
小学1年~中学3年生とその家族対象、各日20名採募集計詳細はお問合せください。
- ロビーコンサート 9月20日(土) 午後2時から 神戸市室内合奏団による演奏
- 小磯良平アドレエ解説 毎日午前11時と午後2時から(約20分間)
※ただしイベント開催時は時刻を変更して行います。

近隣の美術館のご案内 ※当館と別棟に入館券があります。詳しくは、各館へお問い合わせください。

- 神戸ファッション美術館 TEL:078-606-0001 休館日/毎週木曜日
「18世紀 麗しのロココ衣裳展」会期/2007年7月14日(土)~13日(土)
「絹のシンフォニー レースドレス展(仮称)」会期/2007年10月20日(土)~2008年1月15日(火)
- 神戸ゆかりの美術館(神戸ファッション美術館1F)TEL:078-606-0006 休館日/毎週木曜日
「特集展示 没後5年 小松益喜が愛したKOBET」会期/2007年7月13日(土)~9月24日(日)



交通: JR住吉駅・草花島崎駅のりかえ、
六甲ライナー「アイランド北口」駅下車 西へ徒歩すぐ
※地下に市営駐車場(30分100円)があります。